

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

ナガラ族2013

先日見た映画で、17歳の女の子が待ち時間にスマホをチェック、ではなくて、ノートに詩を書く場面があった。1960年代のロンドンという時代設定のおかげともいえるけど、いいシーンだったな。今はどんな待合室もスマホばかりで、詩を書く余裕なんてなさそう。便利なツールのせいで、私たちはますます忙しくなったのでは？

しかし社会人2年生の知人、ユリには時間があるみたい。ラインやツイッターで仲間と絶えずコミュニケーションし、ハードな残業のあとも遊び歩いている彼女が「私ヒマだよー」といつも言う。

ユリを見ていると動きにムダがなく、一度に複数のことを器用にこなしていることに気がついた。電話しながら別の相手にメールしたり、飲み会でも食べて歌ってジョーク飛ばしつつ写真を撮り、次々にフェイスブックにアップしたり。家でもきつと、歯磨きしながらヒンスースクワットしたり、英会話を勉強しながら踊ったりしているんだろう（未確認）。

最近「ながら美容」という言い方もあるが「ながら族」は昔からある言葉。調べたら1958年の流行語で「音楽を聞くなど、他のことをしながら勉強や仕事をする習慣を持っている人」（大辞泉）だった。

一度にひとつのことしか集中できない私も、Kindleで電子書籍を読むときだけは、ながら族だ。本もスマホも両手を使いたくなるけど、Kindleはテーブルに置いたまま片手でさくさくページがめくれるから、空いた手でお茶やケーキを楽しめる。照明を落としたカフェで快適に読書できるのもうれしい。ときどき画面に水滴や粉をこぼしますが！

指をすべらせるスマホの早打ち「フリック入力」にも挑戦している。ユリの所作の美しさに触発されたのだが、スマホでメールや原稿を書くことが増えた今、早打ちは必須科目。トレーニングアプリもあって意外と楽しい。まだ初級だけど、今年中には左手で優雅に指をすべらせながら、右手はさらに優雅に、羽根ペンで詩を綴れるようになってやせい。

あいかわ あい ことばか
相川 藍 (言葉家)

丸の内文学賞 (大賞)、朝日広告賞 (最高賞)、インターネット書評コンテスト (最優秀賞) 受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。